

2007年度第1回大学院特論（平成19年6月11日18:00～）

「救急歯学」(Emergency Dentistry)

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 全人的医療開発学系包括診療歯科学講座
頭頸部心身医学分野 豊福 明

【講義要旨】

歯科（口腔外科も含む）領域における救急的対応を要する状況について、以下のような症状別に具体的な症例をもとにその対応法まで概説した。

1. 疼痛
 1. 歯性
 2. 神経因性
 3. いわゆる心因性
2. 腫脹・腫瘍
 1. 歯性感染症
 2. 腫瘍性病変
3. 出血
 1. 妊娠性エプーリスからの大出血
 2. 血液疾患
4. 外傷
 1. 歯牙破折・脱臼
 2. 顎骨骨折
 3. 軟組織の損傷
5. びらん・潰瘍
 1. アフタ性口内炎
 2. 口腔カンジダ症
 3. ヘルペス性歯肉口内炎・口唇ヘルペス
6. 開口障害
 1. 炎症
 2. 外傷
 3. 顎関節脱臼

7. 誤嚥

1. 歯・補綴物の誤嚥
2. 治療器具（リーマーなど）の誤嚥

また全体的な注意事項として以下のような点を処置前に確認すべきことも強調した。

1. 出血傾向の有無
 - ・抗凝固療法（ワ-ファリン、パナルジン、バイアスピリン etc.）
2. 喘息の既往
 - ・NSAID 禁忌、局所麻酔に注意！
3. 精神障害の有無
 - ・65歳以上では認知症も念頭に
4. 口腔癌の見落としがないか
 - ・「ちょっとおかしい」という注意力を養う

最後に、救急的な各状況において最適な判断・対処ができるようになるには、各病態の予後に精通することや各専門科（医科も含む）との適切な連携も重要となることも述べた。